

キリスト教神学

第3章 神学の方法

一宮基督教研究所

安黒務

「キリスト教神学」 概略

1. 神を研究すること
2. 神を知ること
3. 神はどのような方か
4. 神は何をなされるか
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第1部 神を研究すること 概略

1. 神学とは何か
2. 神学と哲学
3. 神学の方法
4. 神学と聖書の批評的研究
5. キリスト教のメッセージの今日化
6. 神学とその言語
7. ポストモダンと神学

第3章 神学の方法 概略

1. 今日の神学の状況

2. 神学研究の過程

1. 聖書の資料の収集
2. 聖書の資料の統合
3. 聖書の教えの意味の分析
4. 歴史における取り扱いの検討調査
5. 他文化のもつ視点の検討
6. 教理の本質の見きわめ
7. 聖書以外の資料からの光
8. 教理の今日的な表現
9. 解釈における中心的モチーフの展開
10. 主題の層別化

3. 神学的言明の権威の度合い

序

1. 本章の目的
2. 本章の概容
3. 研究課題

第1節 今日の神学の状況

1. 今日における神学の状況の特徴

1. 神学の短命化
2. 偉大な神学学派自体の消滅
3. 神学的巨匠の不在
4. 様々な行動科学の影響の増大

2. 神学的環境から教えられること

1. 最近の文化的風潮と同調しすぎない
2. ある程度の折衷主義が可能
3. ある程度の独立性をもちつつ

第2節 神学研究の過程

聖書の資料の収集

1. 関連する聖書箇所のをすべてを
2. 釈義の手順に注意
3. 方法を吟味
4. 超自然的アプローチ
5. どんな可能性にも開かれたアプローチ
6. 自らの方法論・出発点を吟味
7. 教理的内容の調査
8. 聖書の教えの部分
9. 物語の部分
10. その時代の読者と聴衆

第2節 神学研究の過程

聖書の資料の統合

1. 統合しようと試みる
2. 統一性と整合性の存在を前提に
3. 不一致よりも調和する点を探すべき
4. 「信仰の類比」が守られるべき

第2節 神学研究の過程

聖書の教えの意味の分析

1. それが “真に” 意味していることは何か
2. それらの聖書的な形を正確に分析することが不可欠

第2節 神学研究の過程

歴史における取り扱いの検討調査

1. この種々の解釈を調査するなら
2. 我々の時代とよく似た時代を研究する

第2節 神学研究の過程

他文化のもつ視点の検討

1. 文化がもつ視点に気づかずに
2. 聖書に自分自身の経験を読み込んでいる可能性

第2節 神学研究の過程

教理の本質の見きわめ

1. 「文化的行李の投棄」ではない
2. 一時的な形式と普遍的真理とを区別する

第2節 神学研究の過程

聖書以外の資料からの光

1. 主要な資料だが、唯一の資料ではない
2. 諸々の行動科学
3. 神の創造の範囲
4. 学問の神学への貢献
5. それぞれが完全に理解され、正確に解釈される時のみ

第2節 神学研究の過程

教理の今日的表現

1. 無時間的真理に適切な形式を
2. ティリッヒ「応答する神学」
3. 対話的アプローチ(問いと答え)
4. 答えの内容ではなく形式のみ
5. 文化の分析は注意深く徹底して
6. 分析的モデルよりも総合的なモデル
7. 頑強に固執しがちな自立性を明け渡す
8. 人間を知り、ケアされる神の教理こそが
9. 文化脈化:長さ、広さ、高さ
10. 知的に研ぎ澄まされ成長していく
11. 神学に関連する問題の実際的な性質

第2節 神学研究の過程

解釈における中心的モチーフの展開

1. 神学を特徴づけている基本的な理念
2. 籠の持ち上げるための取っ手
3. ある高さや位置に立つと景色をより正確に
4. 整合性をもつ神学にはどれも
5. 釈義ではなく、読み込みと
6. 異なる時代や異なる文化的、地理的背景では
7. モチーフを絶えず改訂できる状態にしておく
8. 神の偉大さと善良さとを主要な準拠点として

第2節 神学研究の過程

主題の層別化

1. 相対的重要性を基礎として整列・配置する
2. 同じ位置づけでも、他のものより基本的なもの
3. 特定の時代には、ある教理に他の教理よりも大きい関心が

第3節 神学的言明の權威の度合い

1. 直接的な言明
2. 直接の含意
3. おそらく含意されているもの
4. 帰納的に引き出される結論
5. 一般啓示から推論された結論
6. まったくの憶測